四話

爺さまど居(え)で、爺さま、飯(まま)持って畑さ行ったのやなあ、そしたどこで、まず、煙草一服吹で、そしてエ、今度昼(ひるま)なったもの握りまま飯、食(くう)どおもって、見だばおにぎりねぐなったのや、はって、こさたしかに置だおにぎりねえど思って、なんぼ見でもねぐって、そして、今度、一服するがど思って見だば今度、煙草もなぐってはって、そっさおだもの、今おだものねど思って、なんぼ見でもねぐって、したば、畑の隅さ、大きって鼠穴あって、そごさ入って行(え)ったものであるめえがなあ、そごさ、爺さま入っていたのやな、そしたば、そしたば、まずまず、イネゴトイネゴト大イネゴドーしてえだえで、して、飯(まま)もらう、煙草もらう、爺さまきたどって、みなだして喜んで〈、これあの、えがだして、爺さまよぐきたどって、酒飲ませねばならねえ、みなして喜んだのや、そして、まず、なんとお土産もらって、そしてまず、はぁ、飯も食(か)ねても腹一杯なって家(え)さ帰ってきて、そしてきたどごで、お土産もってきたば、となりの婆さま「どっからこれげもらってきたもんだあ」

「おれの爺さまこうしていたば、こら、鼠穴さころんでいってよう」

「したら、俺の爺さまどごもやるがなあ」

ってやって、今度鼠穴さ飯(まま)ころばしてやって、そしていだば、それごそ鼠だオオイネゴトして、

せんども、いたずと猫せもえねがら極楽浄土の真中だ、はあ
したとがや、

ってイネゴドーしたのや、鼠だ。こいだば、

「これ、あの、せんども、いたずも猫せもえねがら」

って言うもの、みんなもって行ぐど思ってしばらくいだのや、

「せんども、いたずと猫せもえねがら極楽浄土の真中だ」

と言うだけ、猫の真似すど思って、

「ニヤオー」

と言ったば、

「それきたあ」

と言うなで、あどの鼠だみんな逃げだのやなあ、そうしたば、今度あどになった鼠、あど見だば、猫でねえ、親爺だものはげで、その爺さま、みんなジイジイとたぐりついで、あどその爺さまをみなしてかちゃいでしんだら格好してもどっきたのや、という昔。

人という真似さねもんだって。